

第1回行政改革推進委員会議記録（要約）

日 時 令和3年8月2日（月） 午前10時～11時30分

場 所 近江八幡市役所4階第1委員会室

出席委員 青山委員・小川委員・川崎委員・城念委員・西川委員
橋本委員・林委員・藤原委員・真山委員・壬生委員

事務局 総合政策部 嵐理事
行政経営改革室 岡村室長
吉田参事（情報政策課長）
吉永参事（総務課長）
今村主幹
三浦主査
園田主査

1. 総合政策部 嵐理事挨拶

2. 議題

（1）令和3年度行政改革推進事業スケジュールについて

会長 以前にはなかった新しいテーマが入っており、この委員会の扱う範囲がどんどん広がっている。しかし、行政経営改革ということであれば行政に関わることは全て関わることになる。そういう意味で、これからの時代の行政もどんどん変わっていき社会も変わっていく。行政改革もその時代に応じた様々な改革を進めないといけない。そのために皆さんのいろんな知恵を拝借しながら議論していきたい。

事務局 資料①に基づき説明
【資料①】令和3年度行政改革推進事業スケジュール

（説明概要）

- ・新庁舎整備に関する取組、オフィス改革、デジタル技術の活用、事務事業評価のスケジュールについては、議題と重なるため説明は省略する。
- ・公共施設等総合管理計画・個別施設計画について
今年度は中間見直しの年になっている。見直しにあたり、各施設の現状や、今後の方向性を確認するためのヒアリングを始める。
個別施設計画はそのヒアリング結果を反映する。公共施設等総合管理計画は、総務省の事業を活用し会計士の支援をいただきながら見

	<p>直し作業を進める。進捗状況は本委員会にも報告し、必要に応じて意見を反映したいと考えている。</p> <p>見直し作業は2月には終了し、3月には公表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他の予定については、資料に示しているとおりに。
会長	<p>各委員から意見を求める。</p> <p>(意見なし)</p>
会長	<p>スケジュール全体の流れについて、こちらでよろしくお願ひしたい。続いて事務局から説明を。</p>

(2) 事務事業評価について

	<p>【資料②】事務事業評価の見直し案について説明</p>
事務局	<p>(説明概要)</p> <p>事務事業評価のうち、事中評価シートを見直す予定である。これまでのシートはPDCAサイクルが分かりにくいものになっていた。また、財政課による次年度の予算査定の資料としても活用できるように、項目の修正を行う。来年度以降も、より適切な項目になるよう随時修正をしていく。</p> <p>このシートは外部評価委員会の資料としても活用していく。外部評価委員会に諮る事業はこれまでは、事務局主導で選ばせていただいていたが、今年度は委員のみなさんに選んでいただき、その中から、事業の規模や所属のバランスを考えて決定していく。</p> <p>スケジュールは資料1に示しているとおりでである。</p>
会長	<p>(各委員から意見を求める)</p>
委員	<p>委員が事業を選ぶ、ということだが表面的な情報で選んでしまうこともあるが、それでよいか。</p>
事務局	<p>問題ない。</p> <p>今回このような形に変えたいと考えた理由は、委員が知りたい事業と事務局が選ぶ事業に乖離があるのではないかと考えたため。また、市民目線も必要であると考えているからである。選んでいただいた結果、事業分野に偏りが出てくるようであれば、事務局と会長とで調整したいと考えている。</p>
委員	<p>どのような方法で事業を選定するのか。</p>
事務局	<p>事業の概要が分かる一覧表を作成して送付する。</p>

委員	事業数はどの程度か。
事務局	300強になるかと思う。
委員	これまで事業評価をする中で、他の委員の意見を聞くことや、議論しながら評価をすることが自分自身の勉強にもなっていた。今回の変更はこの仕組みが変わるということではないのか確認させていただきたい。
事務局	事業評価当日の流れに関しては昨年までと変わらない。事業選定に関して委員の協力をいただくことになる。
委員	評価項目に必要性・効率性・有効性とあるが、評価内容としては一般的であるのか。将来性といった項目もあればよいと考える。
事務局	他市事例を参考にしており、多く見られる評価項目である。将来性については取り込むよう検討する。
委員	評価項目にある法令等で義務付けられた事業の配点が高いが、法令によりすることができると記載されている事業については本当に必要性があるのかも検討するべきではないか。
事務局	了解した。項目を検討する。
委員	ひとつの事業の中に、いくつかの業務が紐づけられている場合はどのように評価するのか。
事務局	原則、1事業につき1業務となっているため問題はない。ただし、複数業務が紐づけられている事業については、最も大きいものを評価することとなるが、今後、事業を分割する等で次年度以降の評価につなげていく。
委員	今年度から開始した事業も評価対象に含まれるか。
事務局	対象としては含めるが、最終的に全体の事業のバランスをみて対象外とするかを判断する。
委員	ふるさと納税応援寄付金を使用した事業は評価対象となるのか。
事務局	その通り。

委員	評価項目について、観点が混在している項目が存在する。別項目とすべきでは。
事務局	了解した。
会長	職員数の過不足についての評価に点数がないのはなぜか。
事務局	今後、業務最適化を実施したうえでの評価とするため、現時点では評価対象としていない。
会長	まだこのシートは完成ではないということ。本日の意見も参考に、より良いシートを作成していただければと思う。 2番目の議題については、ご了解いただいたものとして、3番目の議題の新庁舎整備に係る取組について、事務局から説明を。

(3) 新庁舎整備にかかる取組について

事務局	<p>【資料③】新庁舎整備に向けた検討チームの設置について説明</p> <p>(説明概要)</p> <p>新庁舎整備は現在基本設計まで終了している。この基本設計には、若手・中堅職員で構成されたワーキンググループの検討が反映されている。ワーキンググループが検討を重ねる上で、いくつか課題が出てきた。その課題は庁舎の外側が新しくなるだけで解決するものではなく、中身が変わらないと解決しない。そうした意味からも、新庁舎整備は行政改革であると全ての職員で共有し、新庁舎での市民サービス等について検討するチームを立ち上げる。また、このチームでの検討内容は、本市の内部機関である、行政改革推進本部会議に諮り、本市としての決定事項とする。</p> <p>チームは3つある。1つ目は、業務改善チーム。このチームはペーパーレスの推進により、知的生産性の上がるオフィス空間に向けた仕組み等を検討する。2つ目は、窓口改善チーム。このチームはワーキンググループの提案をベースに、主に現在1階で実施している市民サービスについて検討する。3つ目は、福祉サービス検討チーム。このチームは福祉や教育部局の情報共有や連携について検討する。そして、行政経営改革室は3つのチームの総括をする。</p> <p>検討内容については、本委員会においても報告させていただき、ご意見をいただきたいと考えている。必要に応じてその意見も反映していきたい。</p>
会長	(各委員から意見を求める)

委員	各チームの検討の期待をしたい。確認事項として、内部機関である行政改革推進本部会議の構成を教えてください。
事務局	行政改革について議論する会議であり、会長は市長、副会長は副市長と教育長、本部員は部長級職員である。
委員	実質的な幹部会議ということになるのか。
事務局	その通りである。
委員	資料の中に、他市自治体の事例によると新庁舎整備に合わせて4.5割の紙の削減に成功した、と書いてある。その削減方法を知っていたら教えてください。
事務局	まずは個人の資料を減らし、共有できる資料は同じフロア内で共有された。それだけでも大幅に削減できるようだ。さらに、紙で残すものをきちんと決めるなどルール作りをしたと聞いている。削減に関しては知る限り、スケジュールと目標をきちんと立てている自治体が成功されているようだ。
委員	承知した。
委員	現在の庁舎1階の通路が狭いと感じている。8月号の市広報で新庁舎の基本設計案を見た。新庁舎の通路幅はどうなっているのか？
事務局	通路幅は6m、長さは80mとなっている。YouTubeで基本設計案を紹介しているのでもしよければ観ていただきたい。
会長	窓口の改善やサービスの検討などで、恐らく一番重要になってくるのは、いわゆるたらい回しの解消だと考える。それらが改善されるというのは非常に意味があると思う。一方で行政の立場で議論すると、どうしても法律や権限の問題、さらに個人情報に関係もあり、実は思ったように1ヶ所で全部処理するというのが難しいという現実があるかと考える。 せっかく検討されるので、今後のために、法律の壁によってどこまでできて、どの法律が邪魔しているのかということも資料として残していただきたい。市役所の改善だけではなく今後の行政全般の改善にとって近江八幡市はすごいも

のを残したという全国に誇れる実績になると思う。そういう視点で作業していただくことを期待する。

委員

一般企業を退職して、ある市役所の臨時職員をしていたことがある。その時、行政の内部の事務処理の行程が非常に多いと感じた。新庁舎の整備を考えるときには、市民サービスも重要だが職員の働きやすさも考えて欲しいと思う。

会長

市庁舎の整備に伴い、行政の運営などソフトの改革を進めるということになると、この委員会も相当関わってくる。お気づきのこと、意見等あればぜひ事務局の方にお伝えいただきたい。

それでは4番目の議題、自治体DX推進のための取組について、事務局から説明を。

(4) 自治体DX推進のための取組について

(5) 意見交換

【資料④-1.2.3】自治体DX推進のための取組について説明

事務局

(説明概要)

資料④-1

最近、自治体DX(デジタルトランスフォーメーション)ということがよく言われるようになってきている。これは行政をどんどんデジタル化していく、というのではなく、デジタル技術を活用するというを前提に、自治体経営のあり方や住民サービス、組織風土や文化、組織マネジメント、職員の働き方などを根本的に変革することと捉えている。これは先ほど委員からご意見をいただいた「職員の働き方」に繋がる取組となる。

こちらの資料に関する内容については、まだ予算化されたものではないが、今年度に入り、経費をかけずに取り組んできたことをより踏み込んだ形で推進し、その効果検証を図る事業となっている。

今年度、費用をかけずに実施した内容としては、総合政策部3階フロアに入っている、秘書広報課、企画課、市庁舎整備推進室、行政経営改革室の文書量の削減、わき机の撤去、課長席の廃止。また、それらにより確保できたスペースに協議スペースを2か所設けた。さらに、企画課をフリーアドレス化した。ハサミやのりなどの事務用品を個人で持つのではなく、フロアで一括管理するようにした。職員の意識変革に

より、自主的に自宅からモニターを持ってきてデュアルモニターで事務効率化に取り組んでいる職員もいる。効果を数値化したわけではないが、感触としては事務の効率化に繋がっていると考えている。

9月からは、職場環境を研究している京都工芸繊維大学の仲教授にアドバイスをいただきながら、このフロアにおけるオフィス改革をさらに進めたいと考えている。什器の入れ替えの他、文書量削減を目的とした文書管理方法の見直しや、全職員に対して働く環境に関する意識調査も実施する。そして令和3年度全ての取組の効果検証の後、次年度は市民サービスを担当している部署をパイロットオフィスとし、オフィス改革による市民サービスの向上等について検証したいと考えている。

新庁舎を待たずに今すぐにでも出来ることに着手し、職員の意識向上や組織風土改革により市民サービスをより向上していきたいと考えている。

真山会長 (各委員から意見を求める)

委員 マイナンバーの手続きに来た時にパソコンのレスポンスが遅いと感じた。業務の効率化を考え、スペックのよいものを使ってもよいかと思う。

事務局 パソコンは更新時にはコストなど総合的に判断した上で、その当時のそれなりの機能のものを準備した。職員用のものについては、職員からの苦情等も出ていないため特段問題はないと考えている。マイナンバーの手続きは、全国のネットワーク上での処理になるためレスポンスが悪くなることもある。

システム等に関しては日進月歩の世界になる。今後もシステムの更新時における高性能、高機能のものを選んでいくという方針には変更はないので、ご理解いただきたい。

委員 その時々で多少高くても、最適なものを選択することが、結果的には安くなるということがあると考える。市民の税金を使うので難しいこともあると考えるが、ふるさと応援基金を充当させるなど、職員が効率的に働けるように考えていただきたい。

委員 資料④-2裏面に、三豊市役所のオフィス改革の例を示していただいているが、これは庁舎建て替え時に改革されたものか。

事務局 これは建て替えによるものではない。最近、知的生産性の向上等を目的としたオフィス改革に取り組む自治体が増えてきている。三豊市は多目的エリアや集中・会議エリアを設置されている。こういったレイアウトが事務効率を上げるという効果も示されている。

委員 承知した。市民サービス向上のためにも、よい仕事ができるスペースについて検討いただきたいと思う。

委員 先ほどの話に、個人的にモニターを持ってきているという話があった。私自身はデュアルモニターで仕事をしており、大変効率的であると感じている。税金ということもあり難しいかもしれないが、出来たら全ての職員に対するモニターの設置を予算化して欲しいと思う。個人的にはペーパーレス化には必須だと考えている。

事務局 必要な部署とそうでない部署もあると考える。効果検証の上、検討していきたい。

委員 今できる範囲で工夫をされ、他の部署にも拡大するというのは良いことだと考える。事業を推進する中で気づいたことや、課題が出てくると思うが、その内容を先ほどの議題にあった、新庁舎の業務改善チームの検討に反映されたりするのか。

事務局 お見込みのとおりである。積極的に取り入れていきたい。

委員 この議題ではないが、内閣府が実施しているスマートシティ関連事業の提案について、近江八幡市は申請されたのか。

事務局 把握できていない。

真山会長 それではこのまま議題5の意見交換に進みたい。何かご意見は。

委員 新型コロナウイルスに関連し、この委員会で議論しておくべき内容はあるか。ワクチンの対策室があると聞いているが。

事務局 状況を説明させていただく。前年度末に新型コロナウイルスワクチン接種対策室が出来て、各部署から職員がそちらに配属された。さらに、ワクチン接種の会場の受付業務などは全ての部署の職員で応援している状況になっている。先

が見えない中、苦しくはあるが災害対応レベルで取り組んでいるところである。みなさまにお願いしたいこととしては、新型コロナウイルスにり患しないように生活を送っていただくことに引き続きご協力をいただきたい。

事務局

資料④-2、3について説明が出来ていなかったのも簡単に紹介させていただく。

資料④-2に関しては、昨年度の本委員会でも説明済みの内容になる。いつでも、どこからでもアクセスしやすい近江八幡市役所を目指し10月から「手続きガイド」「オンライン申請システム」「LINE公式アカウント」がスタートする。デジタル化に関する取組はスモールスタートが最適であるとされているため、スタート当初はオンライン申請が出来る手続きは多くはないが、順次拡大していく。

資料④-3については、昨年度実証実験で導入した AI-OCR, RPA の効果検証の一覧表になっている。部署によるがかなり効果が出ている。今年度は、発達支援課、建築課、環境課での業務を追加したところである。

会長

この件、もしくは他にご意見は。

委員

新型コロナウイルスのワクチン接種に関して、私は高齢者枠で接種をした。高齢者枠ということもあってか、市職員の対応が非常に丁寧であったと思う。今後は一般接種となるが、ここまでの対応は不要であるという印象である。

事務局

一般接種に関しては、今のところ高齢者枠の時のように職員が手伝うことはないようになっている。

会長

ワクチン対応やオフィス改革について、この委員会では理解を得やすいが、市民にとっては職員の職場が快適になったというだけでは理解を得るのは難しいと考える。ぜひ、市民サービスの向上に繋げていただきたい。

そういった観点で新庁舎を建設するというのは、様々なことを変革する良いチャンスである。ハードだけではなくソフト面についても、十分に検討していただきたい。

また今後は事務事業評価の外部評価がある。委員のみなさまには、事業の選定作業が新たに増えるということで、ご負担をかけることになるが、ご協力をお願いしたい。

他にご意見等なければ事務局へお返しする。

3. 閉会

事務局

委員の皆様におかれては、長時間にわたり誠にありがとうございました。ご意見などあれば随時お受けしたい。また事務事業評価の選定についてもご負担をお掛けするがよろしくお願ひしたい。本日は誠にありがとうございました。